

1 単元名 「文化祭に参加しよう」

2 単元設定の理由

農園芸班は中学部各学年、計13名で構成されている。2学期より生徒の実態、目標に応じてグループ編成を行った。現在は3グループで活動しており、本グループの生徒は3年生3名、2年生1名の計4名で構成されている。作業学習における実態としては、指示を聞いて一人で作業に取り組み、作業が終了したことの報告や、作業内容についての質問や確認ができる生徒たちである。

作業学習では、自立と社会参加に向けて、生徒自身が達成感や成就感を持ち、自分から働きたいと思えるようになる内容を考えていくことが必要である。その学習内容の一つとして販売活動があげられる。本作業班でも生徒主体の販売活動の場を設定して継続的に行っており、生徒たちは、自ら販売をすることで売れるだろうかという期待感と売れたという達成感を感じることができている。一方で、どうすればもっと売れるだろうか、買ってくれる人が喜んでくれるだろうか、ということを考えたり、意識したりしながら作業に取り組む力はまだ十分ではない。達成感・成就感を感じることによって芽生えた働く意欲を持続させていくためにも、何のために、誰のためにと目的を明確にし、作業に取り組むことは大切な力であると考えられる。

そこで本単元では、たくさんの人が来校し、生徒たちにとって一番の販売機会となる文化祭に向けての話し合い活動を設定した。支援としては、話し合い活動に慣れていない生徒の実態を踏まえ、教師も話し合いに参加する一員となり、考えるべき点を具体的に投げかける。また、実際に販売する物を用意し、生徒自身が確かめ、比較することができるようにする。生徒が自己有能感を感じられるように、決まったことをまとめる際には、誰の意見がどこに反映されているかを見て分かるように工夫する。話し合う内容としては、生徒たちにとって具体的で考えやすい題材として、販売する物の目標販売数、目標売上、看板のデザイン、ポップコーンの販売種類数や味などを取り上げることとした。それぞれの野菜の目標販売数を具体的に生徒自身が決めることで、日々の野菜の成長に責任感を感じ、目的をもって作業に取り組むことができるのではないかと考える。また、買いにきてくれる人の立場で考え、どうすれば買ってくれるか、喜んでくれるかを話し合い、その意見を実現させていくことで、販売への期待感を一層高めることができるのではないかと考える。これらの学習を通して、目標を考え、意識しながら作業に取り組むことの大切さを知り、その目標を達成することで、より働くことへの意欲が育つことを願い、本単元を設定した。

3 全体目標

ねらい	学習指導要領	キャリア発達
○話し合う議題について、自分の考えを発言したり、友だちの発言を聞いたりしながら協力して決めることができる。	職業・家庭（1）	キャリアプランニング能力
○販売する相手を意識して、販売方法について考えたり、いくつかの選択肢から選んだりすることができる。	職業・家庭（4）	人間関係形成 ・ 社会形成能力

4 実態と目標

氏名	実態	個別目標	支援の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 教師の質問に応える形で自分の考えを簡単な言葉で伝えることができる。 自分の発言に自信がもてないと声が小さくなったり、うなずきや首振りなどで返事をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの選択肢から販売方法を選択し、選んだ理由を伝えることができる。 提示された販売方法について、自分が買いにきたらどう思うかを考え、答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に比較できるように、考えられる販売方法を実際に目の前で用意する。 販売方法は、見て比べられるように提示をし、「自分が買いにきたらどっちが嬉しい？」と言葉をかける。
B	<ul style="list-style-type: none"> 提示された作業内容を理解し、一人で取り組むことができる。 質問に対して、自分のなかで具体的なイメージをもち、考えたことを発言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標販売個数について、具体的な目標数を考え、発表することができる。 販売方法について、買う人の立場になって考え、自分の意見を発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をどのくらい販売したいか考えることができるように育てている野菜の種類と数を提示する。 自分が買う立場で考えられるように、具体的な場面をイメージできるような言葉かけをしたり、実物を用いていくつかの販売方法を用意したりする。

C	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えることに消極的な面が見られる。 指示された作業に意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの選択肢の中から自分でよいと思うものを選択することができる。 目標に向かって意見を出し合うことの大切さ、楽しさに気付き、自分の考えを発言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えるだけでなく、周りの意見を参考にすることもよいことであることを伝える。 目標達成への期待感が高まるような雰囲気作りを心がけ、簡単に答えられる質問を多く投げかけたり、出てきた意見を大きく取り上げたりする。
D	<ul style="list-style-type: none"> 作業班の班長としての自覚をもって作業に取り組んでいる。 質問に答えることができるが、質問の意味をよく考えずに答えてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標販売個数を話し合って決めることができる。 販売方法について教師の質問に答えながら、自分の考えを発言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をどのくらい販売したいか考えることができるように育てている野菜の種類と数を提示する。 何について考えればよいかわかりやすいように、具体的な場面をイメージできるようにしたり、実物を用いて販売方法を見せたりしながら質問する。

5 授業計画（24時間扱い）

- 第1次 文化祭に向けて準備しよう・・・16時間（本時は第5時）
 第2次 文化祭に参加しよう・・・6時間
 第3次 文化祭を振り返ろう・・・2時間

6 本時の学習内容

(1) 目標

- 販売するポップコーンの味を選び、自分の意見を伝えることができる。
- 買いに来る人のことを考えて販売方法について意見を言ったり、選択したりすることができる。

(2) 準備物

ポップコーン（調理済み）、ポップコーン調味料各種、ホワイトボード、マグネットシール、模造紙、マジック、のり、話し合い用イラスト

(3) 展開

時間	学習内容及び活動	指導の留意点と手立て<評>評価	予想される生徒の反応と支援
10:30	1 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正してあいさつをすることで、授業の始まりを意識できるようにする。 文化祭の売上目標達成に向けて雰囲気が盛り上がるように前の時間までに話し合ったことや決まったこと、現在の売上などを確認する。 作業全体の活動に見通しをもてるよう、作業時間の前半を話し合い、後半は畑での作業になることを確認し、大まかな予定時間も伝える。 	
10:31	2 全体ミーティングを行う。		
10:33	3 各班ミーティングを行う。 ・本時の学習内容を知る。		
10:35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> (1)ポップコーンの販売方法について話し合う。 (2)模造紙にまとめる。 (3)畑で作業をする。 (4)全体ミーティングで報告する。 </div> 4 ポップコーンの販売方法について話し合いをする。 (1)今日の時間で決める内容を知る。 ①何種類の味を販売するか。 ②何味を販売するか。	<ul style="list-style-type: none"> 決めることはあるが、じっくり考えることができることを知らせるために、ポップコーンの販売方法については、次の作業の時間でも話し合う時間を設けていることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Cが緊張しているような様子が見られたときには、すぐ声をかけられるよう座席をT1の近くにする。 ・Cがなかなか選べない様子が見られた時には、「自分が食べたい物を選んでもいいし、理由は自分が思ったことを言えばいいんだ

10:38	(2)ポップコーンの試食をする。 ・塩コショウ味 ・カレー味 ・キャラメル味 ・醤油バター味 ・コーンポタージュ味	・それぞれの感想を聞くときの参考となるように、自分がおいしい、食べたいと思ったポップコーンにシールをはるようにする。 ・食べた時の素直な感想を引き出すことができるように、何味かは試食をした後に発表する。	よ。」と安心できるような言葉をかける。 ・買いに来た人の立場で考えられるように、A, Bには「自分だけじゃなくてみんなが食べておいしいと思う味を選ぶのもいいよね。」と言葉をかける。
10:48	(3)何種類の味を販売するか決める。	・販売する際の準備の量や準備の仕方について具体的に説明し、販売する種類の数に応じて仕事の量が変わることを知らせる。 ・自分たちの準備とお客さんの気持ちを考えながら種類を多くするか少なくするか決めることができるように、「1種類しかなかったらどうか?」「5種類販売する時はどうか?」など具体的に状況をイメージできるような言葉をかける。 〈評〉買ってくれる人のことを考えた意見を出したり、選択したりすることができたか。	・A, C, Dには、「自分が買うならどっちがいいと思う?」と自分が買う立場になって考えられるような言葉をかける。 ・C, Dには、販売する種類の数によって何がどう変わるのかイメージできるように、イラストや文字が入った資料を用意する。
11:00	(4)何味を販売するか決める。	・自分たちが食べて感じたことだけでなく、買いに来るお客さんのことも考えて決めることができるように、「自分が買いに来て何味があったら嬉しい?」など言葉をかける。 〈評〉販売するポップコーンの味を選び、自分の意見を伝えることができたか。	・Bが意見をまとめるのに悩んでいるような様子が見られたときには、「最後のミーティングで他のメンバーにも試食してもらって感想を聞くのもいいよね。」などと言葉をかける。
11:10	(5)話し合ったことをまとめる。	・最後の全体ミーティングで報告することを確認し、まとめた模造紙は〈文化祭コーナー〉に掲示することを伝える。 ・今日決まったことを確認、賞賛し、販売準備における意欲や販売活動への期待感が高まるようにする。	・Aが最後の報告をすることに不安を感じるようなときには、みんなでもとめた模造紙を見ながらやってよいことや教師や友だちに確認しながらやってよいことを伝える。
11:15	5 あいさつをする。		

7 評価

(1) 生徒の評価

- ・自分で販売したい味を選択し、その理由を答えることができたか。
- ・買いに来た人のことを考えた意見を出し、話し合うことができたか。

(2) 授業者の評価

- ・生徒が自分の考えを発表し、話し合うことができるような場の設定、教材の準備ができていたか。
- ・生徒が自己有能感を感じ、販売活動への期待感が高まるような支援を行うことができていたか。

8 学習形態

